

それは日本株が投資適格になったから

2014年9月11日(木)

第一生命経済研究所 経済調査部
藤代 宏一
TEL 03-5221-4523

- 目下、USD/JPYが107に突入、それに呼応してTOPIXが年初来高値を更新するなど円安・株高が進行中。USD/JPYに比べて出遅れ感が指摘される日本株だが、ROEは閾値とされる8%領域に達しており、今後はPBRの加速度的上昇を伴う日本株ラリー第2弾開始が予想される。悲観論は修正を迫られよう。昨日も指摘した通り、景気回復局面において日本株が前年末水準で大納会を迎える展開は想像しにくく、前年比で20%程度の上昇が予想される（右図は備考に記載の水準で延伸）。TOPIXで1600、日経平均で19000がターゲット。強気見通しを強固に維持する。
- 上述の8%閾値論に関しては様々な見解があるが、ごく簡単に考えればROEが8%領域に達して初めて投資適格（債券のBBB格以上）となり、低PBR銘柄が“ジャンク株”から“バリュー株”に認識変更され、割安修正の買いが入ることで相場全体が活況を呈するということだろう。いわば、ROE 8%以下の企業は投資家の“お目見え以下”になってしまうということだ（投資判断以前にスクリーニングで除外）。反対に既にROE 8%超を確保しているが、翌期以降、本業の増益一服などでその維持が難しくなる企業は株主還元（増配・自社株買）を積極化することで資本効率を高め、投資家を刺激しようと画策するはずだ。結局のところ、その株主重視姿勢が評価され株価は堅調に推移する。

